



なのみ通信

筑前町立東小田小学校 学校通信 9月24日 第7号



スタンバイ！OK！

4列縦隊となり凛々しく入場する4年生です。各学年、まもなくスタンバイOKです。

こんにちは。今回は運動会一色のなのみ通信となりました。

運動場から流れてくる運動会の音楽に、つつい歌を口ずさんだり、リズムをとったりしてしまいます。いよいよ、なのみ112大運動会の開催が間近に迫りました。今年は練習時間も少なく、教職員のモチベーションも気になりましたが、心配無用でした。各学年の表現はダイナミックできびきびとして、私はすでに「感涙」状態。「思いを一つに、全力なのみっ子」のめあてに向かい、なのみっ子達は、演技に最後の磨きをかけています。

◇ はじめての全員集合！ ◇

春以来、3密防止のため全校児童が集まることのなかった本校は、昨日、運動会の開会式や閉会式、ラジオ体操等の全体練習で初めて全校児童が運動場で一堂に会しました。みんなでラジオ体操をすると、懐かしいような不思議な感覚でした。私も初めて子ども達の前に立たせてもらいました。子ども達に見つめられて何だかドキドキしてしまいました。4連休明けでしたが、運動会担当の先生の声に耳を傾ける子ども達は、体も少し大きくなりすっかり日焼けして、とても逞しく見えました。

◇ 思いをのせて ◇

近づく運動会。今年は低学年・中学年・高学年の三部形式での開催となり、例年の運動会とはイメージも大きく異なる大会となります。

小学校最後の運動会を迎える六年生。今年、彼らは毎年六年生が経験してきた貴重なステップの機会を新型ウイルスに奪われてきました。新六年生への覚悟を決める三月卒業式、入学式や歓迎遠足での一年生とのふれあい、縦割り掃除の班リーダー、応援合戦、そして日々の友達や下級生との自由な交流、いざれもできないまま……。けれども、決して投げやりになることなく、授業に、日々の生活に、彼らなりに前を向いて取り組んできました。

そうした中で迎える今年の運動会。最後の締めは六年生八三名による伝説の舞い「南中ソーラン節」となりました。

「当日、六年生の南中ソーラン節は全校で応援しますよ。」と、練習を終えた六年生に話しかけました。すると彼らは笑顔の中にもしっかりとしたまなざしで私にうなずきました。不安や照れではない、まっすぐな意志のようなものを感じました。今、彼らは、担任の先生と共に、限られた時間の中で、その最終演技に挑み続けています。

九月二六日（土）、私達は、六年生の最終演技「南中ソーラン節」を全校児童、全職員で見守ります。

六年生が、胸の中にしまい続けてきたすべての思いを乗せた舞いが、みんなの胸に響くことを願っています。